錦城高校新聞

題字　井口　文章

再刊　第４２５号

印刷・発行

錦城高等学校新聞委員会
編集室 2023

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：２０２３かごしま総文に参加した部活動、委員会を紹介！
錦城祭クラス企画、企画名を大公開
二面：かごしま総文の取材コースを紹介！

鹿児島で咲かす文化の華

かごしま総文開催

錦城高校からは３部門に出場

７月29日(土)から８月４日(金)に鹿児島県で開催された第47回全国高等学校総合文化祭の新聞・放送・将棋の３つの部門に、錦城高校の生徒が参加した。今号では大会に参加した感想や結果を紹介する。（編集部共同取材）

新聞委員会

新聞委員会は７月29日(土)から31日(月)にかけて鹿児島県鹿児島市の志學館大学で開催された第47回全国高等学校総合文化祭２０２３（かごしま総文）に参加し、優秀賞を受賞した。

大会には各県を代表する新聞部が集まり、取材コースごとに班を組んで鹿児島市内各地を取材した。

実際に大会に参加した委員長の山本葵さん(２Ｉ)は「いつもと違うメンバーで取材をして紙面を作って、各校でそれぞれの新聞に特徴があると思いました。各校の良い点をこれからの錦城新聞に活かしていきたいです」と話した。

他校の生徒達と新聞を制作するＡコース２版

（大会の様子は二面にて紹介する）

映画研究部

映画研究部は８月３日(木)、４日(金)に鹿児島県鹿児島市かごしま県民交流センターで行われたかごしま総文放送部門に『橋は続くよどこまでも』という作品で参加し、ブロック２位を獲得した。

この作品の代表の八尋瀬成さん(３Ｄ)はこだわった点について「自分が中心となって作る初めての作品だったので、見ている人に思いが伝わるように構成などを考えました」と語る。

大会を経て後輩に向けて「作品作りで行き詰まるときもあると思いますが、一人で考えず誰かと一緒にやると解決することも多いので、仲間とのコミュニケーションを大切にしてほしいです」とメッセージを送った。

マスコットキャラクターかごまると共に写真撮影！

将棋部

８月２日(水)、３日(木)では将棋部門が鹿児島県指宿市指宿総合体育館・指宿白水館で開催された。今大会では男子個人戦に水谷裕太さん(３Ｇ)、女子団体戦、主将渡辺千紗さん(２Ｊ)、副将長田なつみさん(２Ｉ)、三将伊藤彩哉子さん(１Ｇ)が出場した。

どちらの部門でも惜しくも予選敗退という結果に終わってしまったが「少し悔いは残るものの、とても印象に残る大会でした」と水谷さんは話す。今大会では全国的に名の知られた強豪が多く参加したレベルの高い大会だったそうで、水谷さんは高校生活最後の大会ということもあり、悔いのない将棋を指そうと心掛けたそうだ。

レベルの高い選手が集う

「最後となる試合であまり力を発揮することができなかったのが悔しいですが、同時に高校三年間将棋をやり切ったという達成感もありました」と笑顔で話してくれた。

また女子団体に参加した伊藤さんと長田さんは「思うような結果は残せませんでしたが、とても素晴らしい刺激を受けました。自分の勉強すべき点も見つかったので、次回の秋の新人大会を目指して努力していきたいです」と次の試合に向けての意気込みも聞かせてくれた。

母校で得た努力の成果

体操部二年生女子　団体総合６位入賞

錦城高校体操部女子が、８月26日、錦城高校で行われた東京都高等学校体操競技二年生大会に出場し、団体総合６位入賞を果たした。出場したのは、小池絢音さん(２Ｄ)長島瑶さん(２Ｄ)浦山一花さん(２Ｅ)峯﨑真優さん(２Ｅ)高杉咲良さん(２Ｈ)。

今回大会に入賞したということについて、浦山さんは２年生になってからも、何度か大会を経験してきたが「今回の二年生大会は特に全員が入賞を目標に練習を続けていた大会だったので、入賞できてうれしかったです」と話してくれた。

表彰状と共に決めポーズ

また、この大会に入賞するまでに努力してきたことを聞くと小池さんは、挨拶を誰よりも早くすること、すぐに並ぶこと、顔の表情や目線をいつも以上に気を付ける、などの常日頃から心がけられることだと教えてくれた「私たち二年生の代は人数が少ないので、お互いの得意不得意をよく理解することができ、お互いにアドバイスをよくします。これが、入賞の秘訣だと思います」と嬉しそうに話してくれた。

そして最後に、大会に参加した５人は「60回生は全員が初心者ですが、技の成功不成功にかかわらず応援しあい楽しみながら大会に臨むことができました。応援してくれた皆様、本当にありがとうございました」と感謝の意を伝えたうえで、後輩に「大会は緊張しますが、声を出してほかのどの団体よりも楽しむ意識で臨んでほしいです」とエールを送った。（珠）

錦城祭クラス企画一覧

錦城高校のHPに、錦城祭の特設サイトがオープンしました！各クラスや団体の企画や、催し物の詳細を確認できます！
～次号には部活動や有志団体の企画内容を掲載します。～

企画団体	企画名	場所
１Ａ	縁日日和	１Ａ
１Ｂ	ワンコインクエスト	１Ｂ
１Ｃ	呪われた教室からの脱出	書道室
１Ｄ	フォトスポット	１Ｄ
１Ｅ	Haunted"　Sandai　temple"	１Ｅ
１Ｆ	Matsushita　festival!!	１Ｆ
１Ｇ	縁日	１Ｇ
１Ｈ	チョコバナナ	バスケコート
１Ｉ	バイレーツ・オブ・イヅミアン	１Ｉ
１Ｊ	カジノで君の人生賭けてみない？	１Ｊ
１Ｋ	ひらめＫ！ときめＫ！謎を解Ｋ！	１Ｋ
１Ｌ	TOY STORY MANIA!	１Ｌ
２Ａ	Aん日	２Ａ
２Ｂ	２Ｂカラオケ	２Ｂ
２Ｃ	ブーさんのHoney　Hunt	２Ｃ
２Ｄ	思い出借り人競争	２Ｄ
２Ｅ	賭博脱出録ダガシ	２Ｅ
２Ｆ	２Ｆのハッピーライド	２Ｆ
２Ｇ	姫に届けろ！新感覚お化け屋敷！	２Ｇ
２Ｈ	あまキッチン	バスケコート
２Ｉ	こおり処　にぃな	３Ｊ
２Ｊ	激萌！！！おかりなさいませ^ごじゃけんさま！！！	２Ｊ
２Ｋ	お化け屋敷	２Ｋ
２Ｌ	カジノ遊奴祭	２Ｌ
３Ａ	Love　so　sweet　～錦城祭編～	３Ａ
３Ｂ	Bending　machine　~this　is　new　style~	３Ｅ
３Ｃ	占いの館	３Ｃ
３Ｄ	With	３Ｄ
３Ｅ	鳥家族～植田ファミリーによる焼き鳥の時間ですよ!!～	バスケコート
３Ｆ	りょう`s　Café	３Ｆ
３Ｇ	焼うどん～池神亭～	バスケコート
３Ｈ	私のオトシモノ	３Ｈ
３Ｉ	山中たこやき	バスケコート
３Ｊ	ケンジおじさんのワッフル	バスケコート
３Ｋ	田中中華耕作中	バスケコート
３Ｌ	クレープ★パラダイス　＃原宿神谷通り	３Ｌ
３Ｍ	昭和レトロ喫茶	３Ｋ

広がる意見交換の輪

グローバルスタディープログラム開催

積極的に英語を話す参加者の様子

８月７日から11日の間、視聴覚室で行われたグローバルスタディープログラムに編集委員会が参加した。このプログラムでは 40 人の参加者が日本やアメリカの大学に通う外国人留学生が一人ずついる７個のグループに分かれる。このプログラムは、事前に配られるテキストに基づいた授業が展開され、その途中で出される質問について議論、意見交換を行うというものだ。すべて英語のみで進行されるため、留学生が話していることを聞き取るのに苦労することもあったが自信を持ち積極的なコミュニケーションを図ろうと思うことができた。

自身の社会的なアイデンティティや SDGｓというようなテーマも多くあり、英語力の向上だけでなく物事を深く考え、自分自身の意見を持つことの大切さを実感する良い機会ともなった。短い期間ではあるものの、普段の学校生活では経験ができないことが多く非常に充実した５日間だった。（蘭）

むらさき草

田村由美さんの作品でドラマ化もされた『ミステリという勿れ』という漫画があり、夏休みに観なおした。主人公久能整は様々なことに疑問を持ち、とことん考え抜く性格で、いつも持論を展開する。そんな久能のセリフで印象に残っているのは「真実は人の数だけあるんです。でも事実は一つです」という言葉だ▼『広辞苑』によると、「真実」は嘘偽りのない本当のこと、「事実」は実際に起こった事柄という意味だ。似たような意味だが実際は異なる▼例えばＢさんはＡさんにいじめられていると思っているが、Ａさんにいじめている自覚はなく、ただの遊びだと思っている。そんな時、ＡさんがＢさんにぶつかってＢさんが階段から落ちた。この時、Ｂさんにとっての真実は「Ａさんが自分を突き落とした」だ。しかしＡさんにとっては「たまたまＢさんにぶつかってしまった」というのが真実だ▼この時の事実は「ＡさんとＢさんがぶつかって、Ｂさんが階段から落ちた」ということだ。どちらも嘘をついていない。しかし、２人の「真実」は違う▼８月末から原発処理水の海洋放水が始まった。海外のメディアでは「処理水で日本の魚が汚れる」という報道があり、ニュースを見た人の中にはそれが真実だと思う人が出ているそうだ。しかし、日本国内のメディアでは「処理水のせいで魚が汚れることはない」と報道されていて、それを見て安心だと思う人もいる▼処理水の是非は置いておくが、報道によって人々の「真実」が違ってくる。これはメディアがよく世の中に与える影響だ▼錦城高校新聞の作成に携わって２年目。新聞で大事なことは、出来事を正しく伝えることだ、とよく言われる。自分が正しいと思い込んでいる「真実」だけを伝えてしまうと、誰かの「真実」と矛盾が生じ、誰かの不利益になってしまうかもしれない。これからも「事実」を伝えるということを意識していきたい。（紫）

現地で感じる文化の違い

三週間のオーストラリアホームステイ研修

参加者レポート！

現地の生徒と会話をする錦城生

７月27日～８月17日、24名の生徒がオーストラリアのホームステイ研修に参加しました。

今回の研修はホストファミリーの協力のもと、Forest Lake State high schoolにて、３週間学校生活を体験しました。授業では現地の日本語を学んでいる生徒と一緒に日本語と英語で会話をし、お互いの文化や価値観などについて知ることができました。休み時間になると事前に組まれたバディと一緒に昼食をとり、遊びます。そして、放課後は各々のホストファミリーと散歩や買い物に行ったりして過ごします。休日はホストファミリーと一緒にビーチに行ったり、観光地を回ったり、旅行に行った家族もいました。

最初の一週間は会話もたどたどしく、聞き取るので精一杯でしたが、日を重ねるごとに徐々に慣れて、３週間目には自分の意思をそつなく伝えられる程に上達しました。（萩原）

©錦城高校新聞委員会編集室 2023

遺品が伝える特攻の実情

かごしま総文の閉会式後、知覧特攻平和会館で研修取材が行われた。この取材は、平和会館の語り部の方から戦争や特攻の悲惨さを伝えるお話を聞き、施設を見学するという形で行われた。

お話の中で語り部の松山尚子さんは太平洋特攻作戦について説明し、隊員の遺書を読み上げた。また、戦死した息子のへその緒を、94 歳になって平和会館に寄託した母親の手紙を紹介した。特攻隊員の平均年齢が、21.6 歳であったことを伝え、「私の話を通して、戦争を体験していない若い世代の方々に平和の大切さ、命の尊さを語り継いでいきたい」と語る松山さん。私たちに向けて「相手にとっての最善を信じて相手のことを思いやるきめ細やかな情愛を持ってほしい」と語った。

実際に使用されていた戦闘機

知覧特攻平和会館では、陸軍沖縄特攻作戦で戦死した 1,036 名の隊員の遺影が、出撃戦死した月日の順に掲示されている。また、家族・知人に残した遺書・手紙・辞世・絶筆なども展示されており、命の尊さ、平和の大切さを伝えている。

説明で使われたスライドショー

施設内には当時使用されていた戦闘機や、その部品まで展示されており、戦争の悲惨さを物語っている。（蛋）

鹿児島 400 年の歴史

←西南戦争の爪痕が残る城壁

Ｃコースは『「薩摩 77 万石」の歴史を知る』をテーマに、御楼門や黎明館、照国神社、石橋記念公園で取材を行った。

初めに訪れたのは鹿児島城（別名：鶴丸城）。鹿児島城は　１６０１年頃に初代藩主の島津家久が建設に着手した。現在は城壁と２０２０年に復元された御楼門が残されており、城内には鹿児島県の歴史、民俗、工芸品の展示がされている黎明館がある。実際に城壁の近くを歩くと、その表面には西南戦争の弾痕である無数の穴を見ることができた。

大鳥居をくぐって照国神社へ

次の取材先の照国神社は照国大明神（島津家第 28 代当主：島津斉彬）を祀った鹿児島県内で最も大きな神社である。境内にある照国文庫資料館では鎌倉時代からの島津家の歴史や薩摩藩の財政改革など、島津家に関する様々な資料が展示されていた。最後に訪れた石橋記念公園にはかつて甲突川に架かっていた３つのアーチ石橋は現在市民の憩いの場になっている。公園内の記念館では、当時の建設技術や歴史が展示されており、建設に関わった多くの人々の姿を知ることができた。（鋼）

鹿児島の伝統に触れる

Ｆコースでは「鹿児島県伝統の地場産業を知る」ということをコーステーマとして、鹿児島県内を巡った。最初に回ったのは鹿児島県名物軽羹の名で知られる『明石家』。普段は見せない軽羹製造ラインなどを見学し、その場で出来立ての軽羹を試食した。次に回ったのは『奄美の里』という場所。ここは同じ鹿児島県内である奄美大島の生活の様子などをそのまま持ってきた施設だった。内部は奄美大島に生息する植物やその土地で行われていた伝統の様子などが見ることが出来た。

奄美大島の自然を感じることが出来る

さらに、奄美の里には奥へ進んだところに大島紬の歴史を見ることが出来る『都喜ヱ門』という美術館がある。この奄美の里を創設した藤氏の息子にあたる藤茂喜さんにお話を伺うことが出来た。藤さんは「『amami』をイタリア語で訳すと『私を愛して』という意味になるんだよ」と教えてくださった上で「こういう言葉を恥ずかしいけれどまっすぐ言えるような人になってほしいですね」と話してくれた。（珠）

明治維新を先導した島津家

Ｂコースの「明治維新の原動力を探る」では鹿児島の名所である旧鹿児島紡績所技術館と名勝仙厳園への取材を行った。

明治維新を支えた紡績所技師館

最初に取材した旧鹿児島紡績所技術館とは、幕末に島津家第 29 代当主忠義が日本初の洋式紡績工場を建設した際のイギリス人技師向け宿舎である。幕末における洋風化建築の進展を示す建物で、コロニアル様式のベランダや日本風のドアノブなどの和洋折衷の建築様式が特徴的である。

次に取材した仙厳園は、江戸時代に島津家 19 代当主光久によって築かれた別邸で、桜島を一望できる広大で美しい庭園や、その中にある錫門や千尋厳などが魅力である。

また、島津斉彬が建設したアジア初の近代的西洋式工場群の尚古集成館本館もあり、２０１５年には世界文化遺産にも登録されている。仙厳園では薩摩切子のかけらを使ったキーホルダー作りや弓矢体験などの体験イベントや、鹿児島名物である両棒餅も売られており、歴史を学びながら大人から子供まで全員が楽しめる施設だ。（月）

高校生新聞記者が見たかごしま

７月 29 日（土）から 31 日（月）の３日間に第 47 回全国高等学校総合文化祭かごしま大会新聞部門が開催された。今号では、私たち新聞委員会が参加したかごしま市内で取材を行うコース取材や研修取材で訪れた知覧特攻平和会館、大会会場の様子を紹介する。また、大会終了翌日の８月１日に私たちが訪れた鹿児島城と「白熊」の本店「無邪気」についても掲載する。

（編集部 60 回生共同取材）

各校が協力して作り上げた総文祭

大会を先導した生徒実行委員会

今回のかごしま総文新聞部門の生徒実行委員長である鹿児島県立大島高校の有田結愛さんは「最初は自分が委員長としてやっていくことが想像できなかったけれど、練習や準備を重ねていくうちに成功させたいという責任感が出てきてやり切りたいと思うようになりました」と振り返ってくれた。有田さんの高校は島にあるということで、離れた生徒と準備をうまく進められるように、何度も連絡を取り合うなどの工夫をしてきたそうだ。委員長の貴重な経験をどのように生かしていくかを聞くと「何かをまとめたり人前で話したりすることは必要になる時があるので、その時は今日よりうまくできるはずだという自信につなげたい」と話してくれた。

また大会の受付を担当していた鹿児島実業高校の三本莉理さんは「もともと人見知りだったけど、全国の人たちと話しているうちに慣れてきて話すのが楽しくなりました」と笑顔で答えてくれた。東京にいる錦城生にメッセージをお願いすると「鹿児島には深い歴史と豊かな海や山などの自然、そこでとれるおいしい食べ物など魅力がたくさんあるので、ぜひ一度来てみてください」と話してくれた。

優れた新聞から学ぶ

全国の高校新聞のうち、内容やレイアウトが目を引くものを紹介する。 北海道立帯広柏葉高校の新聞は、生徒教師関わらずあだ名で紹介されており、遊び心満載だった。顔写真を切り取って有名なキャラクターの胴にはめ込んだりと、編集技術の面でも一線を画す構成だった。 埼玉県立松山高等学校では、六本木ヒルズや横浜赤レンガ倉庫、JAXA や Youtuber など多様な取材記事を数多く掲載していた。使用している写真の構図も躍動感がありフレッシュな印象となっていた。（楸）

会場に掲示された各校の新聞

9マス分のメニューを満喫できる

7 月 29 日(土) から 7 月 31 日(月)にかけて行われた第 47 回かごしま総合文化祭では、購入を希望した参加者へお弁当が配られる。このお弁当は「おもてなし弁当」と名付けられ、毎日提供されるお弁当にはテーマがあり、内容毎回変わっているという大変うれしいものである。

お弁当は 9 マスに小さくわかれた中に、数多くの種類の具材が入っており、種類も「むらさきいもコロッケ」や「桜島風おいなりさん」など、鹿児島県に関係したものも多く、味も目も楽しむことが出来た。（珠）

食のおもてなし

現在も残る島津家の跡

私たち新聞委員会が 8 月 1 日(火)に行ったのは鹿児島城跡地と照国神社。

鹿児島城は初代薩摩藩主の島津家久が 1601 年ごろに築城を始めた島津氏の居城で、西南戦争の際にも戦いの場所となり銃弾の痕跡が現在になっても見ることができる。鹿児島城跡地の近くには鹿児島県歴史・美術センター黎明館があり、常設展示や様々な企画展示が開かれている。

鹿児島城跡地から照国神社に向かう間には西郷隆盛像があった。照国神社は島津家 28 代当主 11 代藩主 島津斉彬を祭神とした神社で、高さ 19 メートルの大鳥居を見ることができた。（紫）

←お堀には沢山の蓮の花

日本最大の城門である御楼門

超巨大かき氷を実食！

鹿児島県鹿児島市の天文館通りにひっそりとある小さな店舗「無邪気」。この店の前には、開店時刻前から人が並び始める。鹿児島県名物「白熊」の本家であるこの「無邪気」では、スーパーに売っているような白熊アイスではなく、つくりたての「白熊」が食べることが出来る。

編集委員もこの「無邪気」で白熊を食べようとして開店 30 分前にお店に向かったが、すでに行列ができていた。少し待っていると、中から店員さんが出てきて、メニューを配ってくれた。メニューは「スペシャル白熊」や「ヨーグルト白熊」「プリン白熊」など非常に個性的だった。

お店の前で大きな白熊がお出迎え

編集委員は「スペシャル白熊」を一つ注文した。店員さんに注文した際に「こちらは 3 人前の大きさになりますがよろしいでしょうか？」と二回聞かれたが、そのまま注文をした。配られたメニューには写真が無く、普通サイズと比べてどのくらい『スペシャル』なのか分からなかったが、出されたかき氷を見て言葉が出なかった。普通サイズの白熊と比べるとその差は歴然。横幅が人間の肩ほどある大きさの皿に、これでもかと乗せられたフルーツ。さらに、上から見ると白熊になるというかわいらしいサプライズ付き。当初、2 人で完食しようと挑戦していたが、最終的には 4 人ほどで完食することが出来た。

スペシャル白熊の大きさに驚く編集委員

無邪気のホームページ https://mujyaki.co.jp/agent では、白熊ができるまでの歴史を特集したページや、全国に出張販売の広告などを掲載している。興味のある方は一度覗いてみてはどうだろうか。（珠）